魔法少女リリカルなのは 魔法少女と転生者

シーザス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは　魔法少女と転生者

【Ｎコード】
Ｎ８５３６Ｚ

【作者名】
シーザス

【あらすじ】
気がついたら、真っ暗な空間にいた少年、『無蔵（むくら）　聖（こうき）』は神と出会う。
そして、転生した矢先、いきなり「双子座（ジェミニ）」と名のる双子に出会う。
「星座（スター）」とは？　彼らの目的は一体、なんなのか。

：1：

――――

＊「俺はなんでこんなところにいるんだ？」

俺は今、真っ暗な空間にいた。

何も無い。

「――――、！！　誰だ！」

俺は後ろを振り向きながら、構えをとった。

俺の構えは、両手を楽に握って下に下げ、右足を少し前に、左足を少し後ろにして構える。

そこにいたのは――――…、

＊「おっと、キミだな？　『陸奥圓明流』を使う子供ってのは？」

頭に白いわっかをつけた男だった。

＊「誰だよ…？　あんたは？　ってか、なんで『陸奥圓明流』を…？」

＊「まあ、立ち話もなんだ。　座れよ。」

＊「おい、俺の話を無視するな。」

とかなんとかいいつつ、ちゃっかり座ってる俺が情けない…

＊「んで、俺が誰か。　だったな。　まあ、世間的に、俺は神様って奴だな。」

＊「神…？　残念だが、俺は神を信じないんでな。　っうか信じたくない。」

神「あらあらそれは残念だこと。　まあ、いいさ。」

＊「っ！！　てめえ…俺は何故、ここにいる！！　何故、貴様は俺を殺した！！？　知っている真実を全て話せ！！！」

神「わかった。　まず、お前は俺の部下の手違いによって死んだんだ。　俺はお前を転生させる。」

＊「手違い…だと！！？　てめえ！！　デタラメならべてんじゃ・・・！！？」

俺は神に襲いかかろうとした。

しかし、俺の体は空中で止まった。

＊「な、なんだ…！！？」

神「人の話は最後まで聞け。」

その時、俺の体にうっすらと光る小さな糸が…いや、紐か？

＊「ワイヤーか？」

神「よく見えたな。　だが、ワイヤーじゃない。」

＊「ならなんだ？」

神「？雲糸？だ。」

＊「束になれば大の大人でも動けなくなる軽くて、それでいて丈夫な糸か。」

神「知ってたか。」

＊「いや、今知った。」

正直、今になってわかったが、そこらじゅうに張り巡らされてるな。

神「お、よく気づいたな。」

＊「人の心を読むな…」

神「俺は神だからな。」

＊「それで…さっき、俺を転生させるとかいっていたが、何処に転

生させるつもりだ？」

神「『魔法少女リリカルなのは』」

＊「は？　……おいおいまさか、アニメの世界か…！？」

神「お、いい感してんじゃねえか☆」

＊「ってっめぇ！！　やっぱり殺す！！」

神「その動けない状態で、どうやって俺を殺すつもりだ？」

＊「なめんなよ？　俺は『陸奥圓明流』を？使える？だけだ。　継承はしてない！！」

神「…あ」

＊「バカが。」

神「いぎゃあああぁあああぁあああぁーーー！！！」

――

＊「…わりぃ。　案外弱くて…」

神「うううぅ…」

俺の眼下にはボコボコになった神がいた。

神「酷い…最初はまだ良かった。　だが、最後は酷い…？虎砲？からの？虎砲？の跡に向けて？無空波？は無い…体がいかれる…」

＊「ってか、よく生きてるな。」

神「俺は神だからな。　…って何回目だ…？　このくだり…」

＊「ふむ。　やっとくだりに気がついたか。　そういえば…俺は転生後、役目はなんなんだ？」

神「……嗚呼、お前の役目は特に無い。」

＊「特に無い、か…ふん、まあ、いいだろう。」

神「後、お前には『希少技能(レアスキル)』として?零(ゼロ)?を授ける。」

＊「?零?…?」

神「これについては、あっちに手紙を送る。」

＊「わかった。」

神「さて…と、そろそろ時間だな。」

俺は自分の姿を見てみた。

自分の足が透けてきていた。

神「さて、お別れか。　最後に、お前には『リミッター』をつけさせてもらうぞ。」

＊「『リミッター』？　何か関係あるのかよ?」

神「あっちの世界には魔力値というものがあって、お前はそのままの状態で、ランクがＥＸランクなんだ。　だから、『リミッター』でランクをＣ＋ランクになってもらう。　これは技の威力にも関係するからな。　Ｃ＋だと、打撲程度の傷になるだろうから大丈夫だろう。」

＊「そこまで威力が落ちるのか。　なら、大抵のことなら平気だな。」

神「大抵ってなんだよ。　大抵って…」

＊「聞いたらあんた、生きてないぜ？」

神「はー…怖っ！！」

＊「最後に…教えておくか。　俺の名前は聖（こうき）。　無蔵聖（むくらこうき）だ。」

神「やっと、名前を教えてくれたな。　本当にこれで最後さ。　お前の武器を作るから、リクエストをくれ。　作っておくよ。」

聖「だったら、日本刀を作ってくれ。　扱いやすいものならなんでもいい。」

神「お前、剣士だったのか。　わかった。　俺の最高傑作を作っておくよ。　ああ、それから、お前の家は一軒家だ。　あっちについたら、家の前に送っておくよ。」

聖「わかった。　助かる。」

そろそろ、体が消えてきた。

神「さて、と。　そろそろ…」

聖「ああ、お別れだな。」

神「完成したら、お前の家に送るよ。」

聖「ああ、ありがとう。」

そして、俺は光になって消えた。

――――――

神「……さぁて。　頑張るとするかなぁ。」

俺はあいつの注目の品を作り始めた。

――――

聖「ここが、俺の家か。」

俺はかなりでかい家の前にいた。

聖「いやいや、絶対にでかいだろ…別荘か？　ここは…」

俺は呆れて家の中に入ろうとした。

その時、

＊「「ねぇ…。　キミ、『無蔵　聖』だよね？」」

聖「！！？　誰だ！？　何故、俺の名前を…！！？」

＊「「僕達は「双子座(ジェミニ)」だよ。」」

＊「僕はレミア」

＊「僕はファンケル」

レミア、ファンケル「「レミア・ファンケル」」

聖「レミア・ファンケル…？　誰なんだよお前らは…！！」

レミア「とりあえず、場所を移動しようか？」

ファンケル「この先に、人気(ひとけ)の無い場所を知ってるからさ。」

聖「……何が目的だ？」

レミア「キミの…？力？」

聖「（コイツら…）わかった…案内しろ。」

レミア、ファンケル「「そうこなくっちゃ」」

俺は双子についていった。

――

神「なにぃ！！？　「星座（スター）」共が牢獄から逃げ出しただとぉ！！？」

天使「はい…！！　？暗黒の牢獄？が、いつの間にか破壊され、「星座」達は逃げ出しておりました…！！」

神「くそっ…！　（誰か密告者がいるのか…！？　それとも…）なんにしても、急がねぇとな…！！　待ってろよ！　聖！！」

俺は大急ぎで作業を再開した。

――

レミア、ファンケル「「ここだよ。」」

聖「ここは…どう見ても公園じゃないか。」

レミア「そうだよ。」

ファンケル「ここは公園だよ。」

聖「…（そういえばあいつ、『リミッター』がなんなのか教えなかった…！　くそったれ…！！）うおおお！！」

俺は突っ込んだ。

レミア「へぇ？　突っ込んでくるんだ？」

そういったレミアの右手に、真っ白な『大剣』が現れた。

聖「！！？（どこから現れたんだ…！？）ちぃっ！！」

俺は後ろに跳んだ。

レミア「はあっ！！」

ゴヒュッ！！

『大剣』が地面をえぐり、地面が切れた。

ズバン！！

聖「あぶなっ…ッッッ！！？」

後ろからの殺気に気付き、直ぐにその場を離れた。

ドガガガガガガ！！！

銃弾が地面をえぐる。

ファンケル「惜しいな。」

聖「ファンケルは黒い『銃』か…くそっ！！」

レミアは『大剣』、ファンケルは『銃』か…

レミア「？覇斬？」

ファンケル「？ブラストバスター？」

レミアの『大剣』が赤い光を纏った。
それを振り下ろした。

ファンケルの『銃』が青い光を纏った。
それを放った。

聖「（踏み込むしかない…！！）」

ドガアアアアアアアン！！！！！！！

濃い煙が立ち上がった。

聖「うおおお！！！」

煙の中から、俺はレミアとファンケルを奇襲した。

レミア、ファンケル「「！」」

聖「？三日月？！！！」

俺の両足は弧を描き、レミアとファンケルを蹴り跳ばした。

ドガガガ！！！

レミア、ファンケル「「うわあああ！！！」」

ドガアアアァァァン！！！

二人は地面に叩きつけられた。

聖「はあっ…！　はあっ…！　ぐっ…左腕がいかれちまう…！！！」

正直、今のままだと確実に腕が壊れる。

レミア「フフフ…」

ファンケル「惜しかったね。」

聖「なっ…！！？」

ぼろぼろになりながら、二人は平然と立っていた。

聖「嘘…だろ…？」

レミア、ファンケル「「さようなら。『無蔵　聖』」」

レミアとファンケルの武器が俺に向けられた。

聖「まだだ…まだ、終わらない…！！！」

だが、もう体に力が入らない。

――そして――

ガキィン！！！

＊「悪いな、聖。　お前と「星座」を戦わせてしまって。　だが、安心しろ。　俺が来たからには、もうお前には傷一つ付けさせん！！！」

それは、

聖「か、み？」

神だった。

神「立ち上がれ。」

そういって神は俺に『日本刀』を差し出してきた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8536z/

魔法少女リリカルなのは 魔法少女と転生者

2011年12月26日22時48分発行